§8 調 査 の 運 営

§80 経 過

§800 專門員業務経過

§800.0 一般経過

1947 年 (昭和 22 年) 12 月　CIE から文部省へ教育調査の一環として，日本人の読み書き能力調査をしてみたらという話があり，文部省の学校教育局長日高第四郎氏から教育研修所長務台理作にこれを教育研修所でやってみてはという話がある.

1948 年 (昭和 23 年) 1 月 7 日　CIE の Pelzel 氏は教育研修所国語教育主任石黒修に来訪を求め，読み書き能力調査について意見をきき，教育調査についての各地方の大学教授級の名簿が欲しいとの申出があった．石黒はこの旨を務台所長に報告し，その対策を協議した結果，調査をやってみることに内定.

1 月 8 日　各大学で教育調査関係教授の名簿を作成して CIE へ提出．調査をやってみようと思うこと，調査についての指導と援助とを申し入れ.

1 月 14 日　Pelzel 氏から Literacy Research Program の写しを受ける.

石黒修，研修所員梅津八三，前教育研修所長城戸幡太郎が，目的，方法，委員会の構成など Program の検討にあたる.

1 月 19 日　研修所内に準備委員会を設けて計画をすすめる.

委員長　教育研修所長　務台理作，委員　城戸幡太郎，石黒修，梅津八三，島津一夫，馬場四郎.

1 月 23 日　研修所内の人員をできるだけ動かしてこれにあたることになる.

2 月 2 日　CIE Pelzel 氏，Edmiston 女史來所して打合わせ，第 2 次案を提出.

2 月 3 日　調査のための特別予算作成に着手.

2 月 9 日　文部省から，40 万円補助，あとは CIE で保証すると務台準備委員長の話がある.

2 月 13 日　CIE 当事者との打合わせ.

2 月 17 日　CIE 当事者との打合わせ.

2 月 19 日　調査委員構成の原案ができあがり，CIE へ提出. そのあいだ literacy items などを協議，検討.

2 月 20 日　CIE 訪問，CIE から来所連絡報告，協議数回.

2 月 25 日　委員の顔ぶれだいたい決定.

3 月 1 日　第1回委員会.

委員　務台理作（長），服部四郎，石山脩平，喜多野精一，増山元三郎，佐藤良一郎，鈴木文史朗，高木貞二(欠)，城戸幡太郎，石黒修.

1　議事. 経過報告機構大要説明. 委員紹介.

2　地方委員について了解を求める.

3　中央企画分析管理員（専門委員）の人選，同助手人選.

4　石黒修を専門委員長とする.

3 月 6 日　委員会で人選，推選の中央企画分析管理員にきまった人人による第1回の会合（第1回専門委員会）.

3 月 9 日　第2回専門委員会.

3 月 10 日　Literacy Research Program の英和プリントができあがる.

3 月 15 日　第1回総会. CIE 当事者出席.

1　機構の説明，委員，専門員，助手の紹介.

2　中央委員会　総括的な企画をする.

3　中央企画分析管理員会(専門委員会)に実際上の仕事の中枢となる助手群をおく.

4　このとききまった計画.

準備調査　6 月 1 日まで

準備の完了　7 月 15 日まで

本　調　査　8 月 1 日（15 日案も出た）

分　　析　9 月 1 日

報　　告　10 月 1 日

同　　第3回専門委員会. 問題作成の件打合わせ.

3 月 16 日から資料あつめ.

3 月 20 日から新聞語の調査　29 日までの予定で着手したが，予想以上の手数を要し，費用の関係もあり，4 月 30 日に一応打ち切る.（§801 を見よ）

3 月 22 日　CIE 当事者来所して打合わせ.

§8 調 査 の 運 営

3 月 25, 26 日　CIE 当事者との打合わせ.

3 月 29 日　CIE 当事者との打合わせ. 予算　342,000 円と内定.

3 月 30, 31 日　CIE 当時者と新聞記事の分析について打合わせ.

4 月 2 日　CIE 当事者と視察の方法について話合い.

4 月 5, 8, 9, 13, 19, 22 日 CIE 当事者と打合わせ.

4 月 24 日から 26 日　東京都立六中, 武蔵高女, 実践女子専門学校中学部, 江東区本所緑町小学校, 小菅刑務所で予備テスト.

4 月 27 日　予備テストの結果を分析, 研究して, 準備にかかる.

4 月 28 日　専門委員会. CIE 当事者出席. 小田原市の準備調査を決定.

4 月 30 日　専門委員会. CIE 当事者出席. 小田原市の準備調査打合わせ.

5 月 1 日　専門委員会. CIE 当事者出席.

5 月 6 日　東京都久留米小学校, 東京都大崎中学で予備テスト.

5 月 7 日　小田原市へ出張. (神奈川軍政部へあいさつ).
市役所をたずね, 4 支所を手わけして, 配給台帳により sample 500 人をひきぬく. 調査会場決定. CIE 当事者同行

5 月 8 日　麻布霊友会 (仏教団体) で予備テスト.

5 月 10 日　専門委員会. 予備テストの結果分析, 問題の検討を終り問題のプリント, 小田原調査の手配を協議.

5 月 11, 12 日　専門委員会, CIE 当事者出席. 小田原市準備調査打合わせ.

5 月 15, 16 日　小田原市内 2 カ所で調査を施行, 欠席者の追及.
CIE 当事者視察.

5 月 17 日から結果分析.

5 月 24 日　専門委員会. 小田原市の準備調査について報告. CIE 当事者出席.
農村の代表として埼玉県比企郡野本村で準備調査をすることに決定, 打合わせ.
漢字の採点規準は, 小田原市の答案を参考にして資料を作り, 各方面の意見を聞くことにする.

5 月 25 日　野本村へ出張. 埼玉軍政部, 県教育課へあいさつ. 会場を決定. CIE 当事者同行.

5 月 26 日　sample のひきぬき.

5 月 28 日　追加予算の打合わせ.

5 月 30 日　野本村調査. CIE 当事者視察. 以後この結果にもとづいてさらに研究協議をかさねる.

5 月 31 日　追加予算打合わせ. 提出.

6 月 4 日　専門委員会. CIE 当事者出席. 小田原市野本村の調査報告と検討.

6 月 11 日　専門委員会. CIE 当事者出席. 漁村の代表として千葉県長浦村で準備調査をすることに決定. 総会を開く準備, 打合わせ.

6 月 16 日　千葉県長浦村出張. CIE 当事者同行. 千葉軍政部へあいさつ. 長浦村役場に行き, sample をひきぬく.

6 月 18 日　長浦村調査の打合わせ.

6 月 19 日　総会準備.

6 月 20 日　長浦村で準備調査. CIE 当事者視察.

6 月 21 日から 24 日　長浦村の調査結果分析.

6 月 23 日　総会の打合わせ. 本調査の方法協議. 文部省関係官取扱いかた決定. 調査はできるだけ専門委員でやり, 地方委員の負担を少なくすることを申合わせ.

6 月 24 日　CIE 当事者との打合わせ.

6 月 25, 26日　第2回総会. CIE 当事者出席. きまったことはつぎのとおり.

1　調査人員　21,000 人, 280 カ所.

2　調査日取　8 月 8 日までに sample を終り, 10 日前後に調査する.

3　調査方法

i　7 月下旬各地方ごとに調査者の指導講習を開き, 中央から専門委員が出張してこれにあたること.

ii　調査者は, 費用の関係で大学教育学部学生のアルバイトによることを見合わせ, 小学校の先生を臨時委員に委嘱し, 視察員を派して指導監督にあたらせること.

iii　会場は学校を借用すること.

iv　採点は基準と等しくするために中央ですること.

v　問題についての説明と協議.

問題用紙, 呼出状(招待状), 調査票, 証明書などは中央から送る.

vi　各府県知事, 市町村長, 各軍政部に協力援助を求める.

vii　各地方主任の連絡事務用用紙は中央から補給する.

viii　sample の集計表はあとから送る.

6 月 28 日　各都道府県知事あて援助方依頼状を出す. 専門委員会.

6 月 29 日　専門委員会.

6 月 30 日　専門委員会. CIE 当事者出席. 調査要項の準備.

7 月 1 日　専門委員会, CIE 当事者出席. 調査に要する時間その他打合わせ.

7 月 2 日　sampling の集計表ができる.

関西を軍政部管区によって関西と東海にわけることに決定（ただし結果の集計はまえのとおり）.

7 月 3 日　専門委員会. CIE 当事者出席.

7 月 5 日　大日本印刷にテキスト用紙その他の印刷を交渉. トッパン印刷とする.

7 月 7 日　文部省から各都道府県教育部長あて依頼狀発送方を依頼. 城戸委員, CIE 河野, 斎藤両氏京都へ出張, 矢田部関西地方主任に連絡, さらに名古屋教育館へ東海地方担当方を依頼.

7 月 8 日　大日本印刷へ印刷依頼.

CIE Pelzel 氏札幌へ出張, 軍政部, 北海道庁社会教育課へ連絡, 帰途大脇東北地方主任と連絡.

7 月 9 日　専門委員会. CIE 河野氏福岡へ出張し, 佐久間九州地方主任に連絡.

調査解説書プリントでき.

文部省で開かれている都道府県教育部長会議で日高学校教育局長から調査に協力方を依頼.

全国調査地点の市町村あてに依頼狀を発送.

7 月 10 日　村瀬, 石田専門委員助手北海道, 東北の指導講習に出張. (以下講習会については §412 を見よ).

7 月 15 日　専門委員会. 奥羽地方, 中国・四国地方指導講習の日取決定.

7 月 16 日　文部省の各都道府県知事あて協力依頼を催促.

7 月 17 日　専門委員会. 指導講習, テストおよび, 費用その他について打合わせ.

7 月 19 日　CIE 当事者との打合わせ.

7 月 20 日　テスト用紙印刷でき, CIE の好意により RTO を通じて各軍政部あてに発送する.

専門委員会. CIE 当事者出席. 地方出張指導の打合わせ.

7 月 23, 24 日　関東地方指導講習. CIE 当事者視察.

7 月 25 日　東海地方の県市町村へ依頼狀を発送.

7 月 26 日　白石, 島津専門委員から近畿講習報告.

7 月 27 日　新聞ラジオによる宣伝を CIE Higgins 氏, NHK 社会部長南江治郎氏へ依頼.

石田専門委員助手から北海道講習報告.

7 月 28 日　村瀬専門委員助手から北海道講習報告.

7 月 29 日　林専門委員から関東講習報告. 大脇東北地方主任から報告.

7 月 30 日　東京都内区役所へ依頼狀発送. CIE Pelzel 氏および林専門委員京浜区

役所廻り.

新聞発表原稿の検閲を受ける.

7 月 31 日　NHK 放送錄音（石黒，梅津，林専門委員，摩尼放送員対談）.

6 大都市区町あて依頼狀発送.

8 月 3 日　CIE Gazz 氏へ新聞発表の件連絡.

専門委員会. CIE 当事者出席.

古賀中・四国地方主任から報告.

8 月 4 日　共同通信社を通じて新聞発表.（8 月 5 日以後各地新聞に報道. §42 を見よ）.

NHK 白神社会教育課長に放送宣伝依頼.

8 月 2 日　日本教育新聞に記事依頼.

日本ニュース　山内蒔三氏来. 撮影の件連絡.

専門委員会. CIE 当事者出席.

8 月 7 日　各地方委員へ軍政部と連絡，ラジオ，新聞による宣伝方をうながす.

8 月 8 日　東京都調査開始.（以下調査の実施については §43 を見よ）

8 月 10 日　石黒専門委員長，NHK 小森解說課員と放送要項を打合わせ.

柴田専門委員，東海・北陸地区視察に出張. なお，CIE Pelzel 氏，Edmiston 女史および斎藤氏はそれぞれ北海道，東北，東海・北陸地方の調査状況を視察.

CIE 河野氏は千葉県松戸市の実施について努力する.

各地方委員からの報告が順次あつまる.

8 月 17 日　馬場，林，石田各専門委員から地方報告.

8 月 22 日　柴田専門委員から東海地区の視察報告.

8 月 23 日　CIE 当事者との打合わせ.

8 月 25 日　専門委員会. CIE 当事者出席.

1　再調査を市部 65％以下，郡部 70％以下のところですることにきめる.

2　学校調査打合わせ.

3　採点法について協議.

9 月 1 日　関東，関西地方委員から報告，調査用紙回収.

9 月 3 日　専門委員会

北海道庁社会教育課から報告. 調査用紙回収.

9 月 8 日　実践女子専門その他の学生を動員して採点に着手.（10 月中旬まで）

再調査地区の府県知事あて依頼狀を発送.

中国・四国地方委員から委員，調査用紙回収.

9 月 10 日　東北地方委員から報告，調査用紙回収.

§8 調 査 の 運 営

9 月 13 日　UNESCO 顧問郭有守博士に Pelzel 氏，石黒専門委員長，日本における literacy について概要報告.

9 月 17 日　専門委員会．漢字採点の方針をきめる．10 月 16 日まで 1 カ月にわたる．CIE 当事者出席.

10 月 1 日　専門委員会．CIE 当事者出席.

10 月 7 日　学校調査打合わせ.

10 月 11 日　専門委員会．CIE 当事者出席．再調査準備打合わせ.

10 月 15 日　CIE Pelzel 氏，石黒専門委員長，林専門委員，世田谷，中野，江戸川，荒川，台東，中央，港，大田の各区役所をたずねて，再調査に協力方を依頼.

10 月 19 日　香川県教育研究所，信濃教育会教育研究所あて，学校調査の依頼状を作成発送．東京都再調査打合わせのため教育研修所に臨時委員の来集を求める．杉山東京都視学列席.

10 月 21，22 日　川崎，横浜，横須賀再調査準備.

10 月 22 日　専門委員会

横須賀市 sampling．CIE 斎藤氏参加，ジープを提供される.

10 月 23 日　横須賀市教育部長あて再調査協力方依頼.

10 月 24 日　水戸市，神奈川県厚木町再調査．厚木町は CIE 斎藤氏担当.

10 月 24，25 日　東京都再調査.

10 月 31 日　横須賀市再調査．CIE 斎藤氏参加，ジープを提供される.

11 月 上 旬　川崎市再調査.

11 月 13 日　専門委員会　CIE 当事者出席.

11 月 15 日　九州三納村調査用紙回収．（回収終る）

11 月 20 日　藤沢市吟味調査打合わせ.

11 月 22 日　藤沢市吟味調査の sampling．CIE 当事者協力.

11 月 26 日　学校調査，東京都足立区千寿小学校.

11 月 27 日　CIE 斎藤氏藤沢市当局者と会見，準備完了する.

11 月 28 日　藤沢市吟味調査．CIE 河野，斎藤，原田氏参加.

11 月 30 日　学校調査，東京都文京区眞砂小学校．中野区上高田小学校.

12 月 3 日　学校調査，　東京都大田区大森第四小学校．　大田区相生小学校．CIE 河野，原田氏参加

I. B. M. から第 1 回の計算結果到着.

12 月 6 日　学校調査，東京都青梅小学校.

12 月 7 日　学校調査，東京都北区神谷小学校.

12 月 8 日　学校調査，東京都目黒区第七中等学校．東洋女子中等学校．CIE 河野，原田氏参加．

12 月 9 日　学校調査，東京都向島区向島女子商業．

12 月 10 日　専門委員会．CIE 当事者出席つぎのとおり決定．

専門委員会　12 月 20 日

協議　12 月 22 日

総会　1949 年（昭和 24 年）1 月 7 日

概要報告　1 月 15 日

12 月 13 日　学校調査，東京都足立区足立第八中学校．

12 月 15 日　学校調査，東京都大和村大和中学．

12 月 17 日　学校調査，東京都世田谷区荏原中学校．

12 月 19 日　CIE 当事者との打合わせ．

12 月 20 日　専門委員会．学校調査の報告．

12 月 24 日　I. B. M. から第 2 回の計算と結果到着．

12 月 30 日　専門委員会．CIE 当事者出席．

1949 年（昭和 24 年）1 月 4 日　報告書の原稿作成打合わせ．

1 月 7 日　総会．CIE 当事者出席．

調査の概要，経過報告をして承認を求める．

今後の日程など協議．

3 月末までに報告書提出．

同　日　専門委員会．東京都内学校調査実施の概要報告．香川県の学校調査に対する打合わせ．

1 月 11 日　学校調査，東京都荒川区開成高等学校．

1 月 12 日　学校調査，東京都港区芝商業高等学校．

1 月 26 日から 30 日まで香川県の学校調査（丸山，北村，野元専門委員助手出張）

2 月 2 日　長野県学校調査の打合わせ．I. B. M. から第 3 回計算結果到着．

2 月 5 日　専門委員会．CIE 当事者出席．報告書打合わせ．専門委員会を縮少する．3 月末までに報告書作成．

2 月 23 日　I. B. M. から第 4 回計算結果到着．

3 月 2 日　学校調査，長野県打合わせ．I. B. M. から第 5 回計算結果報告．

3 月 3 日　東海，北海道，中国・四国報告分析できる．

3 月 6 日から 9 日　長野県の学校調査（柴田，島津，石田，都竹専門員出張）．

3 月 24 日　信濃教育会教育研究所から学校調査資料到着．

3 月 28 日　専門委員会.

3 月 31 日　専門委員会を解散，あとは残務整理委員をおく.

5 月 7 日　CIE へ報告書提出済みにおいてはこれを整理し，適当な形で出版ができるならば，委員会の名において出版すること，出版に関しては，石黒，柴田，島津，林，野元の 5 人を編集委員としてこれにあてることを決定. CIE Pelzel 氏了解(英文報告書は別に CIE のほうでする，内容については CIE の意見が加えられることもあること).

5 月 24 日　東大協同組合出版部から出版交渉がある.

6 月 4 日　新聞語集整理終る.

6 月 18 日　発表会開催を決定.

6 月 27 日　発表会打合わせ.

7 月 16 日　東京大学法文経第 25 番教室で読み書き能力調査報告発表会を開く.

開会のことば	日高第四郎
メッセージ	Pelzel 氏 (CIE 顧問斎藤襄治氏代読)
あいさつ	CIE Stalnaker (スタルネイカー) 博士
調査の目的と実施	専門委員長　石　黒　　修
テスト問題の作成	専門委員　柴　田　　武
調査地点および被調査者の選定	専門委員　林　　知己夫
テスト問題の吟味	専門委員　島　津　一　夫
調査の結果	専門委員　柴　田　　武
司　会	幹事長(文部事務官)　小　林　　毅

1950 年 (昭和 25 年) 4 月 13 日初校出る. 原稿の整備，校正，索引作成などについては，残務整理委員野元菊雄 (CIE) があたる.

§800.1 経過日暦（附．アルバイト使用状況）

		1 2 3 4 5 6 7	8	9 10 11 12 13 14	15	16 17 18 19 20	21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
3月	言語		準備会	←文字言語資料	総会	の収集→	←語集調査（第1次）→
	心理					←*1→	
	統計			←			サンプリングのための資料収集
	一般			←文字言語資料		の収集→	
4月	言語	→		←テスト資料の構成準備→		←テスト資料の構成→	←準備テスト，テスト資料の
	心理	←かなの読み書きテスト作成方針検討→	*2	←語集テスト案作成→		←漢字の読みかた書取りテスト原案作成，教示案作成→	都立六中 武蔵高女 語集調査 *3 *4
	統計	→					→
	一般						
5月	言語	検討→			小田原市調査	←小田原テストの分析→	←野本村テストの準備
	心理	*5	*6	*7 *8 小原田テスト問題印刷		←野本村テストの準備→	
	統計	準備調査の実施	プリング小田原サン	準備→		←サンプリング計画および準備調	プリング野本村サン 査の結果
	一般						野本村調査 整←
6月	言語	野本村テスト分析	←テスト資料の最後的検討，長浦村調査の準備→		長浦村調査	長浦村テストの分析総会の準備	総会 ←本調査のため
	心理	同上→ *9	*10 *11 *12 *13			←同上→	*14
	統計	理および準備調査の計画	プリンク長浦村サム	→		sampling 計画完了，準備	調査の整理
	一般						

*1 かなの読みかた，語集，センテンス・パラグラフにわけてテスト構成　*2 かなの読み書きテスト原案決定　*3 語集調査結果の報告　*4 予備調査実施打合わせ　*5 久留米小学校予備テスト　*6 大崎中学予備テスト　*7 小田原市テスト案検討　*8 小田原市テスト完成，出張日程の立案　*9 小田原市野本村結果の概要　*10 完成案の検討　*11 日程の検討　*12 長浦村調査細部打合わせ　*13 テスト用紙印刷　*14 テスト時間の決定

		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
7月	言語	の準備（テスト用紙印刷，解説書作成，公文書作成，書類配布など） *15 ←指導講習会のため出張
	心理	←本調査準備→ ←各地指導講習会
	統計	解説書作成および講習会の教育実施
	一般	答案，印刷，発送終了 講習会開始
8月	言語心理	→← 調査実施 →
	統計	視察に出張および集計計画，再調査計画
	一般	宣伝開始 ←調査実施→
9月	言語心理	←採点・書類の整理
	統計	調査票の coding およびその検閲．被調査者名簿の整理，回収
	一般	*16 答案回収しはじめる *17
10月	言語	→← 再調査（横須賀）の準備，反応分析整理 → 横須賀再調査
	心理	→ 吟味調査の準備
	統計	用紙の完備化のための処置 ←再調査準備および実施→ ブリング横須賀サ
	一般	再調査実施
11月	言語	横須賀テストの採点 ←採点基準に関する調査整理おわる．第2次語集調査，問題内部相関表の作成．藤沢調査準備 藤沢吟味調査 学校調査 *18
	心理	←国語学力検査問題作成印刷 → 学校調査
	統計	報告書作成準備および学校調査，吟味調査実施 ブリング藤沢サン 計画
	一般	答案回収おわる．九州三納村が最後（11月15日到着）

*15 採点基準に関する調査　*16 関東・関西くる　*17 中・四国くる　*18 藤沢市テストの採点

		1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31
12月	言語	←文字生活の実態調査整理→ ←学校調査（東京）の準備と実施，報告書一部制作
	心理	実施および結果整理（東京）
	統計	実施および I.B.M. の結果整理，再調査の結果整理，報告書作成
	一般	*19 *20 *21
1月	言語	→←第3次語集調査，学校調査採点，報告書作成→ ←香川学校調査
	心理	→←報告書作成
	統計	結果整理および学校調査 総会 実施，報告書作成
	一般	香川学校調査
2月	言語	第3次語集調査，報告書作成（写しもふくむ）→ 香川から答案くる 採点 ←第3次語
	心理	
	統計	結果整理および学校調査実施，報告書作成
	一般	*22 *23
3月	言語	集調査，報告書作成 長野学校調査 ←報告書作成
	心理	→
	統計	
	一般	*24

*19 I. B. M. 第1回到着　*20 I. B. M. 第2回到着　*21 報告書草案提出　*22 I. B. M. 第3回到着　*23 I. B. M. 第4回到着
*24 I. B. M. 第5回到着

§8 調 査 の 運 営

アルバイト使用状況

1 統 計

	目 的	アルバイト作業量	作業総量*
9月 10月	coding および 検閲	250 人時	650 人時
12月 1月 2月 3月	集計整理	1,000 人時	1,500 人時

*coding および検閲，集計整理についやした全作業量

2 言 語

	目 的	アルバイト作業量	作業総量
3月 ↓ 4月 (19日間)	語集調査 (第1次)	2,400 人時	3,000 人時
9月 ↓ 10月	採 点 (本テスト)	3,600 人時	4,800 人時
11月	語集調査 (第2次)	300 人時	480 人時
1月	同 上 (第3次)	600 人時	1,200 人時
1月	copying そ の 他	600 人時	1,800 人時

§801 語集調査

1948 年(昭和 23 年)3 月 9 日　専門委員会で，文字言語資料のうち特に重要なものとして，新聞語を調べることにきまった．

3 月中旬　新聞を sample した．また，この調査の計画および準備をした．

3 月 22 日から 29 日　実践女子専門学校の生徒の力を借りて，sample された新聞を文節に区切ること，および 10 文節ごとに赤線をひく仕事をした．

3 月 29, 30 日　ひきぬかれた新聞に項目別のしるしを書き入れた．また，新しく数部の新聞を sample してつけたした．

3 月 31 日から 4 月 3 日　sample された文節をカードに書き写した．

4 月 3 日から 5 日　カードを五十音順に並べた．

4 月 6, 7 日　おなじ新聞のおなじ項目のところに2回以上あらわれた語を別のカードに書き入れた．また，その回数のカードを回数順に並べた．

4 月 7 日から 8 日　おなじ新聞のおなじ項目のところに1回しかあらわれなかった語を表に書き入れた．

4 月 8 日から 13 日　回数のカードから度数点を作って，それから key-word を選び出した．

4 月 16 日から 30 日　新聞語の吟味調査をはじめた．また，おなじ新聞のおなじ項目に1回しかあらわれなかった語を表に書く仕事を続けた．

10 月 11 日から 16 日　上の仕事を続け，完成した．

10 月 14 日から 18 日　実践の生徒の手伝によって，おなじ新聞のおなじ項目に1回しかあらわれなかった語の表に度数表の語およびその回数を書き入れた．

10 月 14 日から 19 日　回数のカードとそれらのもとのカードとをとり換えた．

実践・青山学院の生徒に以上の仕事のすんだカードに新聞の weight をかけて書き入れてもらった. これをやりながら, 順序の狂ったカードを並べ直した.

10 月 17 日から 28 日　実践の生徒の力を借りて, すべての新聞の項目別の五十音順の表（ただし1回だけあらわれるものをのぞく）を書いた.

問題（八）のなかの, 新聞から選んだセンテンス・パラグラフの語の, 新聞での出所（新聞別・項目別）の表を作った.

11 月上旬　新聞別の表・項目別の表のそれぞれの回数を合計した.

1949 年（昭和 24 年）1 月 6 日から 11 日　新聞語のカードのすべてを五十音順に並べた.

1 月 10 日から 2 月上旬　カードの語すべてを表に書き写した.

1 月 11 日から 3 月 7 日　新聞語の表を点検して確かめた, またその表の一部を清書した.

3 月 8 日から 18 日　新聞語の表から, 合計度数が 13 以上のものをカードに書きぬいて, そのカードを度数順に並べてそれを表に書いた.

3 月 18 日から 24 日　読み書き能力調査の問題に使ったすべての自立語の, 新聞における出所（項目別）を表に書いた. また新聞語の吟味調査を続けた.

4 月・5月　新聞語調査の妥当性の調査をした.

6 月 4 日　新聞の語集調査の報告をまとめた.

（附記）　この調査ならびに整理は, 専門委員長石黒修を中心とする科学研究費補助による「日本語基本語彙調査」の一環として, その費用の不足を補うことにした.（この報告はそのほうでおこなわれることと思う.）

§802　採点と点数の記入

§802.0　採点の経過

準備テストの答案の採点は, それぞれすぐ東京大学の学生の力を借りた.

1948年（昭和 28 年）5 月 11 日から 14 日　採点基準の案を作った.

5 月 17 日から 25 日　漢字の採点基準をきめるための調査案を作った.

5 月 27 日から 7 月 5 日　漢字の採点基準をきめるための調査の準備をして, 問い合わせの手紙を出した.

7 月 6 日から 9 月 13 日　上の手紙の返事を集計して, 漢字の採点基準をきめ, 印刷した.

8 月下旬から 9 月 6 日　採点基準（漢字以外）を印刷した.

9 月 7 日から 10 月 14 日　実践女子専門学校の生徒およびそのほかの学生に頼んで, 本調査の答案の, 漢字以外の採点およびそれの検査をした.

9 月 17 日から 10 月 16 日　実践，第一高等学校，青山学院女子専門学校，東京高等師範学校などの生徒によって，本調査の答案の漢字の採点およびそれの検査をした．採点はひとりがおなじ語をとおして見るようにした．

10 月中旬から 12 月初旬　再調査の答案の採点およびそれの検査をした．

12 月下旬　青山学院の生徒の力によって，東京の学校調査（高等学校の一部をのぞく）の答案の採点，記入，合計，集計をした．

1949 年（昭和 24 年）1 月中旬　実践の生徒を使って，東京の高等学校の一部の答案の採点，記入，合計，集計をした．

2 月下旬から 3 月下旬　香川県の学校調査の答案の採点，記入，合計，集計をした．

3 月下旬　長野県の学校調査の答案の採点，記入，合計，集計をした．

4 月上旬　学校調査ぜんたいの集計および問題別学年別の点数の平均を計算した．

§802.1　点数の記入と合計

1948 年（昭和 23 年）9 月中旬から 10 月中旬　実践女子専門学校などの生徒の力を借りて，本調査の答案の点数をそれにあたる調査票に記入し，それを個人別に合計した（合計の計算は 2 回ずつしたが，あやまりがまったくなかったとはいえない．）図第 98 で，右側のワクが点数の記入をするところである．R の欄には正しい答の数，Wの欄には間違った答の数，Nの欄には答の書いてない問の数を書いた．$\overset{(一)(二)}{\text{計}}$ の欄には（二）の二(漢数字の書取り)を，$\overset{(三)}{\text{計}}$ の欄には（三）の四（アラビア数字の読み）を書くことに変更した．（八）ではR% の欄に間違った答の数，J の欄に答の書いてない問の数を記入し，一番左の欄に正しい答の数を書くことにした．

10 月中旬から 12 月上旬　再調査の答案の点数を，それにあたる調査票に記入して個人別に合計した．

§81　計算の方法と運営

§810　Coding

点数の記入合計の終った調査票に対して，統計関係者は東京高等師範学校数学科の学生に頼んで，つぎのやりかたで coding をした．期日は 1948 年（昭和 23 年）9 月いっぱいかかった．

回収された調査票を I.B.M. 集計にかけるため調査事項に対して 0～9 の数字の組を対応させる必要がある．（この数字の組と調査事項との関係はつぎの「読み書き能力調査の coding」を見よ．）

coding には調査票の左側の欄を使った．この一例を図第 98 に示す．この種の coding はあやまりの多いものであるから検閲を 4 回にわたってした．

図第 98 で，赤い数字で書いてあるのが code である．code はすべて一番左側の

欄につけた．ただし総得点に対する code だけは R の欄の下，ワクの外に書いた．例で 13 とあるのがそれである．

code するにあたって，アルバイトの学生につぎの注意書を配った．

読み書き能力調査 coding

一般的な注意

1　coding　は赤鉛筆または赤インクでする．

2　code　をうつべきところに何も記入しないときは斜線を引く．

3　少しでも不明のところがあったときは，係の者にたずねてから記入する．

当地に移住した年

年	1～2	3	4	5	6～7	≦10	≦15	≦25	≦40	40＜
code	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

年齢

年齢	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64
code	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

性別

性　別	男	女
code	1	2

産業，職業

〇じるしでかこんである産業および職業のまえについている数字をそのまま記入する．

その職業についた年

当地へ移住した年の項と同様に記入する．

その前の産業，職業　家の産業，職業

産業の項とおなじ．

学歴

上の欄に学校の種類．下の欄には「ナシ」「在学中」とかの項の数字（〇じるしのある）を記入する．

新聞，ラジオ

〇のついている数字をそのまま記入する．

到着時間

時間	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5
code	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

この項は地名ごとにこちらで指示する.

分	≦-34	-34< ≦-24	-24< ≦-14	-14< ≦-4	-4<0≦4	4< ≦14	14< ≦24	24< ≦34	34< ≦44	44<
code	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9

この項は2ケタとし，10 位に時間，1 位には分で試験開始時間からのへだたりを記入する.

備考

	A	B	C	D	E	F	G	H
code	1	2	3	4	5	6	7	8

この項は無記入が多い. §410 を見よ.

§811 I. B. M. の集計表とその計算

読み書き能力調査の集計は CIE の好意と尽力とによって，I. B. M. (International Business Machines)[1] によっておこなわれた. さらに，この集計表により，いろいろに分類した集団の平均点と標準偏差とを計算した.

1) I. B. M. とはアメリカの統計計算機械である. 図第 98 のように coding された調査票を別のカードにとり直す. すなわち，読み書き能力調査の場合，カードは図第 99 のように区分される. そしてこの区分によって調査票を図第 100 のようにアナをあけたカードにおき換えるわけである. (図第 100 は図第 98 であげた例をそのままカードにしたものである.) このカードは電氣の絶縁体であるから，アナのあいたところだけ電氣が伝わり，機械に連動して，あるしるしに属するカードの枚数（すなわち sample さんの数）をかぞえたり，合計したり，いくつもの複雑な表を作ったりする. そしてその結果は自動的にタイプされて表となって出てくる. その表の例を図第 101, 102 にあげる. この I. B. M. は，このようにして，何万枚ものカードを数分で処理してしまうので，整理の時間が手でする場合にくらべてはるかに少なくてすむ.

§811.0 I. B. M. の集計表

I. B. M. へ依頼した集計目錄をつぎのページ以下に原文のままのせよう.

Table Description

A Testee Count

I No. of Testees

a By Data

		Table No.
1	Date moved to Test Spot	1
2	Age	2
3	Sex	3
4	Industry	4
5	Occupation	5
6	Schooling	6
7	Newspaper	7
8	Radio	8
9	Family Industry	
i	For Unemployed	9
ii	For Student	10
10	Test Period	
	(by Spot only)	11
11	Sex	12
	Newspaper	
	Age	
12	Industry	13
	Schooling	
b	By Location	
1	District	
	(Spot, Rural, Urban)	
2	National (District)	

II No. of Testees

a By Data

		Table No.
1	Note	14
2	Sex	15
	Industry	
	Schooling	
	Age	
b	By Location	
1	District	
	(Strata, Rural, Urban)	
2	National (District)	

III No. of Testees

a By Data

		Table No.
1	Industry	16
	Former Industry	
	Date entered Industry	
2	Sex	17
	Family Industry	
	Age	
3	Industry	18
	Date moved to Test Spot	
b	By Location	
1	District (Rural, Urban)	
2	Tokyo & Osaka	
3	National	

IV No. of Testees

a By Data

1	Test Period	19
	Radio	
b	By Location	
1	National	

Remarks: No. of Table is as follows.

Table 1～11	11 Data×7 Locations (6 Districts & National)=77
Table 12, 13	2 Data×25 Locations (4 Types by 6 Districts & National)=50
Table 14	1 Datum×7 Locations (6 Districts & National)= 7
Table 15	1 Datum×25 Locations (4 Types by 6 Districts & National)=25
Table 16～18	3 Data×21 Locations (3 Types by 6 Districts, Tokyo, Osaka & National)=63
Table 19	1 Datum×1 Location (National)= 1
	Total 223

B Test Grades

I No. of Testees by No. of Right Scores for the following Questions by District (Urban, Rural) & National

		Date	*Table No.*
a	Q.1 (1+2)	by Schooling (simple)	1
b	Q.2 (1+2)	〃	2
c	Q.3 (1+2)	〃	3
d	Q.3 (3+4)	〃	4
e	Q.1+Q.3 (1+2)	〃	5
f	Q.2+Q.3 (3+4)	〃	6
g	Q.4	by Schooling	7
h	Q.5	by 1 Age	8
		2 Sex	9
		3 Occupation	10
		4 Schooling	11
i	Q.6	by Schooling	12
j	Q.7	〃	13
k	Q.8	by 1 Sex	14
		2 Schooling	15
		3 Newspaper	16
1	Total Score	by 1 Age	17
		2 Sex	18
		3 Industry	19
		4 Occupation	20

5	Schooling	21
6	Newspaper	22
7	Notes	23
8	Sex	24
	Age	
9	Age	25
	Schooling	

Ⅱ No. of Testees by No. of Right Score for the following Questions by District (Spot, Urban, Rural) & National.

		Table No.			*Table No.*
a	Q.1 (1+2)	26	g	Q.6	32
b	Q.2 (1+2)	27	h	Q.7	33
c	Q.3 (1+2)	28	i	Q.6+Q.7	34
d	Q.3 (3+4)	29	j	Q.8	35
e	Q.4	30	k	Total Score	36
f	Q.5	31			

Ⅲ No. of Testees by a Total Non-Response Score for the following Questions by District (Spot, Urban, Rural) & National.

		Table No.			*Table No.*
a	Q.1 (1)	37	n	Q.1 (1+2)	38
b	Q.1 (2)		o	Q.2 (1+2)	
c	Q.2 (1)		p	Q.3 (1+2)	
d	Q.2 (2)		q	Q.3 (3+4)	
e	Q.3 (1)		r	Q.1+Q.3 (1+2)	
f	Q.3 (2)		s	Q.2+Q.3 (3+4)	
g	Q.3 (3)		t	Q.4+Q.5	
h	Q.3 (4)		u	Q.6+Q.7	
i	Q.4		v	Q.1+Q.2+Q.3+Q.4+Q.5	
j	Q.5		w	Q.4+Q.5+Q.6+Q.7+Q.8	
k	Q.6		x	Total Score	
l	Q.7				
m	Q.8				

Ⅳ No. of Testees by a Total Non-Response Score for the following Questions by Age, by Schooling (Simple) & by District (Spot, Urban Rural,)

		Table No.
a	Q.4+Q.5+Q.6+Q.7+Q.8	39
b	Total Score	

V No. of Testees by a Total Right Score by Question & by Spot.

		Table No.
a	Total Scere	Special

Remarks: No. of Table is as follows.

Table 1～24	24 Data×19 Locations (3 Types by 6 Districts & National)	=456
Table 25	1 Datum×19 Locations (3 Types by 6 Districts & National)	=19
Table 26～36	11 Questions×7 Locations (6 Districts & National)	=77
Table 37～38	2 Questions×7 Locations (6 Districts & National)	=14
Table 39	1 Questions Group×24 Locations (4 Types by 6 Districts)	=24
Special Table	1 Total Score×6 Locations (6 Districts)	= 6
	Total	596
	Total No. of Table of Literacy Test	819

これらの集計の代表的なものを図第 101, 102 に示した. 図第101は上の目録のAの例で, Table 6 の一部であり, 図第 102 は B の例で, Table 17 の一部である. なお, これらの集計表は大部分表第 12 に整理して示されている. 集計表は国立教育研究所に保存されているから, 詳しくはそれらについて見られたい.

§811.1 平均点と標準偏差との計算

この調査の集計は, I. B. M. によっておこなわれ, 約800枚の学歴, 年齢, 産業などで分類した得点構成の表が得られた. このように I.B.M. ではあらゆる調査事項が数字におき換えられて操作されるので, 図第 102 の code をもとに直し, 図第103として書き直された. それぞれのよこ欄はそれぞれひとつの度数分布をなしているが, この平均点と標準偏差とを計算するのが目的である.

1 計算用紙

計算するにあたって, I. B. M. の table から一応全部度数を写し換える方法をとった. これは,

i I. B. M. の集計表をよごさないため

ii 流れ作業に便利なため

である.

district 3, すなわち関東全地域〔市部+郡部〕に対する計算用紙と計算順序との模様を図第104に示した. 各年齢区分に対しても1枚ずつの計算用紙が作られる. 赤字

の①，②，③，……㊱が計算の順序をあらわし，①，②に度数分布が書いてある．

2 変 換

平均点や標準偏差を計算する場合，点数に $\frac{x-a}{b}=t$ の形の1次変換をして計算の能率向上をはかることはよくおこなわれる．ここでは $\frac{92-x}{5}=t$ として，t を使って計算した．満点に近いほうが人数の大部分を占めるので，この近くの t を小さくすると計算が簡単になる．x と t との関係はつぎのとおりである．

code	点数	中央値 x	t	t^2
19	90	90	0.4	0.16
18	85～89	87	1	1
17	80～84	82	2	4
16	75～79	77	3	9
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
3	10～14	12	16	256
2	5～9	7	17	289
1	1～4	2.5	17.9	320.41
0	0	0	18.4	338.56

3 ft, ft^2 の計算

ここでは③，④，⑤，……，㉒が示すようにそれぞれの code 別に計算した．code がきまれば，t, t^2 は一定なので，同種類の計算用紙をあつめて流れ作業とすることができる．この場合，③，④，⑤，……，㉒がそれぞれひとりの分担となる．なお，つぎのような早見表をそれぞれの code について作っておけば，f が小さいときは計算器をまわす必要がない．

code 3	f	ft	ft^2
	1	16	256
	2	32	512
	3	48	768
	4	64	1.024
	5	80	1.280
	⋮	⋮	⋮

4 前項に対する検算

②，④，⑤，……，㉒をたして㉓に書き，ここで検算する．すなわち，それぞれの年齢区分の㉓をたして，区分しない全体に対する計算用紙の㉓になるかどうかを見た．code 19, 1, 0 で最後のケタまで計算したのは，まったく検算の正確を期するためであった．㉔は検算済のしるしである．

5 規準化

市部と郡部との出席率が違うので，㉓をそのままでなく，一定の定数をかけてからたして，全地域に対する数とした．この規準化の定数はそれぞれの地区別に「必要な sample 数÷実際の出席人員」として計算された．その結果はつぎのとおりである．

	市　　部	郡　　部
北海道	1.1652	1.1156
東　北	0.9059	0.9668
関　東	1.1361	1.0135
関　西	1.0314	1.0129
中四国	1.0518	0.9986
九　州	0.9479	0.9522

6　前項に対する検算

㉕，㉖が規準化された値であり，これをたして㉗が出るが，ここでもう一度，(4)の方法で検算をして，間違いを防いだ．ただし，こんどは4捨5入の誤差が入るため，最後のケタで1か2はくい違うことがある．

7　平均点と標準偏差とを出すまで

㉙の逆数はNの小数点を 53.110 と見て，位取をする．この逆数を㉗にかけると㉚を得る．㉜は㉚から㉛を引いたもので，㉝には㉜の平方根を書く．こうして求められたm, σ（㉚，㉝）は点数をTにより計算したときの値なので，これをもとに直さなければならない．すなわち，$92-5m$ として眞の平均を出し，5σ で眞の標準偏差を出した．㉞がこの値である．なお，㉟のように100点満点と見たときの数値に換算して，問題のあいだの比較に便利をはかった．こうして得られた平均点と標準偏差とはグラフによって綜合的に検算され，確定したら㊱にしるしをして計算が終るのである．

8　有効数字と計算との誤差

sampling による誤差が，0.5点ぐらいまでは，もっとも精度のいいところでも起こり得るので，結果の有効数字は小数点以下1位までで十分であろう．途中の有効数字の数については図第104を見よ．N とその逆数との有効数字の数は一致することが望ましい．また明らかにわかるように㉗までは相当余計な数字を出している．㉕以後の4捨5入がきいて，㉟に來ると 0.1 点のくい違いはときどき起こるであろうが，0.2 点の誤差はほとんどありえない．

9　流れ作業と計算の時間

計算は1枚すんでからつぎの紙に移るという方法でなく，同種類の計算用紙をあつめて，それぞれの段階を分担し，流れ作業をとった．この利点は特に ft, ft^2 の計算でいちじるしい．また，流れ作業にすると計算器や数値表を有効に使うことができる．このようにすることによって1枚平均 30 分以内で計算することができるようになった．経験によると，㉔の段階の検算にもっとも時間がかかる．ここで数値が合わないとき，どこで間違ったかを発見する早さは，熟練に大きく左右されるのである．